

# くまもと面白漫遊記

～前畑冬樹広報特派員のおすすめのこの町・この人～

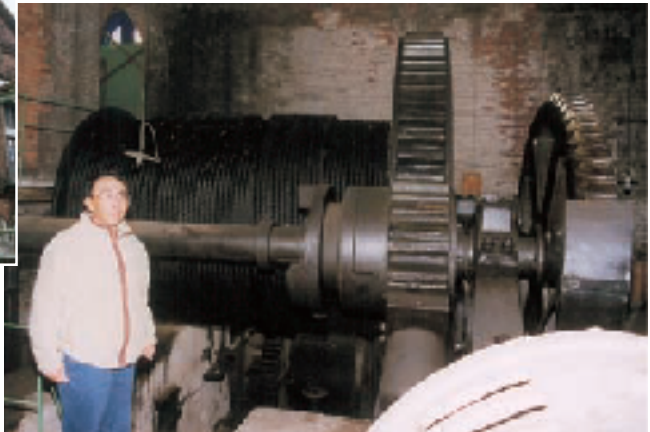
No.10

荒尾地区

日本の近代化を支えたエネルギー - “石炭”。  
炭鉱のまち・荒尾はその偉大な足跡を  
今、語りはじめました。  
見て感じるもの、聞いて知ること、  
活かしてつなげたい、技術・人の歴史。  
文化・交流・観光、  
万田坑の第2の人生が始まります。  
……………万田坑ファン倶楽部



旧万田坑第2 豎坑櫓と巻揚機室



資材巻上げ用のウインチ

5年前、四ツ山坑の解体を荒尾市民はどんな思いで見つめていたのだろうか。石炭エネルギー - 時代の幕引きである、その“セレモニ - ”は市民の胸にある一つの思いをわき上がらせた。その思いが旧万田坑を国の重要文化財「建造物」、その後の「国史跡」へとつながったのだ。近代化遺産は歴史の“語りべ”である。手をのばし、足を向ければ、一時代を築いた炭鉱の歴史が、荒尾という“まちの詩”を語りかけてくれる。旧万田坑は、これから「文化・交流・観光」という第2の人生を迎えようとしている。

## 『万田坑ファン倶楽部』の参加資格は、 万田坑を大切にし、その魅力を伝え育てていくこと。

今も荒尾市の中、広大な敷地を占める三井三池炭鉱跡地。万田坑のシンボルである「第2 豎坑櫓」が明治、大正、昭和と築いてきた石炭エネルギーの全盛時代を物語っている。KUMAKENが5年前、〈荒尾市の活性化〉をテーマに取材した当時、荒木広報委員は万田坑に「活性化のキーワード」を見つけていた。その後、旧万田坑が国の重要文化財「建造物」（平成10年）さらに「国史跡」（平成12年）となったことに、荒尾市民の炭鉱に寄せる“感謝”の気持ちと炭鉱という大きな歴史を未来につなげたい思いが表れている。日本の近代化に大きな役割を果たした炭鉱、そこで開発された技術、築かれた文化、人々が暮らした“まち”の歴史など、炭鉱は多くの財産を残し、終焉を迎えた。近代化遺産としての価値は大きい、しかし、問題はその貴重な文化遺産をどう、この新しい時代に活かすかであろう。そこで、荒尾市に『万田坑ファン倶楽部』なるものが登場したのである。

かつての荒尾市のシンボルと言え、万田坑の煙突。その煙突を見ながら育った前畑広報特派員、荒尾市の文化歴史に詳しい荒木広報委員も万田坑への思いはひととき強い。そんな二人と共に、向かった先は昨年、荒尾市地域産業交流支援館として完成した〈万田炭鉱館〉。炭鉱の町・荒尾の歴史を映像や模型で学ぶことができる施設である。『万田坑ファン倶楽部』とは何か？ 関係するお二人の方に話をうかがった。



万田炭鉱館



万田炭鉱館内



## 【三池炭鉱万田坑とは？】

文明元年（1469）に発見され、江戸時代、三池藩が採掘を開始、明治6年に明治政府の所有となり官営での開発がはじまる。

明治22年（1889）三井組に払い下げられ、三井三池炭鉱は、團琢磨らの経営陣の活躍により発展を遂げる。万田坑は明治30年（1897）に開鑿（かいさく）され、明治35年から出炭を開始、当時の最先端技術が導入され、明治・大正期はわが国最大級の炭鉱施設となり三池炭鉱の主力坑として採掘された。

昭和26年（1951）採掘を中止、以来、平成9年（1997）三井三池炭鉱の閉山まで、坑内の揚水と管理を担う。

現在、第2 豎坑櫓と坑口施設、巻揚機室、倉庫、ポンプ室などの建造物が残されている。



坑口施設（第2 豎坑）



お一人は、現在、『万田坑ファン倶楽部』の事務局が置かれ、会の仕掛け人とも言うべき荒尾市の社会教育課文化系の勢田広行さん（文化財担当）、もうお一人は、元JRの職員で『万田坑ファン倶楽部』の活動のお世話をされている平木善（しげる）さん。



勢田さん

前畑特派員 Q：『万田坑ファン倶楽部』とは？

勢田さん A：近代化遺産としての貴重な万田坑の魅力を知って頂き、保存、活用を目的としたボランティアの市民団体です。  
平成9年に三池炭鉱が閉山になった後、保存が決まった後の平成10年に国の



平木さん

重要文化財、12年に国の史蹟に指定されました。

2つの指定を受けているのは、県内では熊本城と万田坑だけなんです。

その貴重な財産を保存するため、荒尾市が整備活用基本構想を策定するにあたり、行政だけでなく、有識者や広く市民の意見を取り入れようと、平成11年度に「ワークショップ」を開いたのがキッカケです。



前畑さん

前畑特派員 Q：どんなワークショップですか？

勢田さん A：「万田坑に行こう」では、万田坑の重要文化財指定建造物の見学と元炭鉱勤務者による説明です。

「万田坑を見よう」では、型取り、葦ペン画、ベストショットの班に分かれ構内で作品を作った他、バンド演奏、写真家の作品なども展示しました。

「万田坑を味わおう」では、「〇年後の万田坑を考えよう」というテーマで参加者から様々な意見を頂きましたが、その時、『万田坑ファン倶楽部』結成の話が出て、早速、会員を募集しました。



前畑特派員 Q：そこで、平木さんが入られた訳ですね。

平木さん A：万田坑の保存、活用のために少しでもお手伝いできないかと思い、ファン倶楽部の会員になりました。

その際、約150人が入りました。現在は、約200人、県外の方も多いんです。



第1堅坑口深さ273m

前畑特派員 Q：会の目的は？

平木さん A：参加資格は、「万田坑を大切にし、その魅力を広く伝え育てていくこと」。

平成12年の7月『万田坑ファン倶楽部』の総会が開催され、正式名称を『三井三池炭鉱万田坑ファン倶楽部』とし、「清掃」「企画」「広報」の3つのグループに分かれました。月に1回ほど、会合を開き活用方法を話し合っています。私は清掃の隊長ですよ。



石炭産業の遺跡を残しながら、活用方法を見い出して、荒尾の発展のために利用していきたいですね。

前畑特派員 Q：平木さんが『万田坑ファン倶楽部』に入られて感じたことは？

平木さん A：建造物はもちろんのこと、ガイドしていただいた炭鉱勤務者の説明は貴重なものです。当時の話がリアルに伝わってきます。しかし、炭鉱勤務者も高齢になられているので、「体験記録」をとっておきたいと思っています。

昨年（平成13年5月27日）、掘った石炭を燃やして発生させた蒸気を動力にする所「機関場（きかんば）」と言いますが、周辺と選炭場周辺を重点的に清掃・草刈りを行いました。機関場がどのようになっていたか、構造が分かっていたため、炭鉱に勤めていた人に説明を受けました。『謎の機関場』を探りながら、清掃作業を行いました。そういう話、機会がとても貴重だと思います。

前畑特派員 Q：『万田坑ファン倶楽部』で「万田坑マップ」を作られましたが、とても分かりやすく、きちんと説明されていますね。

平木さん A：「炭鉱のまちを歩こう」というイベントを実施し、会員で万田坑をイベント

会場、見学会場としてとらえ、《万田坑、早く見たいでしょマップ》を作成しました。

できるだけ早く、たくさんの人たちに万田坑の魅力を知ってもらいたい！という願いを込めて作りました。

## ノスタルジーだけでない “炭鉱のまち”の活かし方。 歴史は活かしてこそ、本物の歴史になる。

重要文化財となると、以前は、ちょっと距離をおいて眺めるだけという先入観があった。「保存」という事だけにとらわれて“本物”を見る、学ぶ触れる、という機会がなかったとも言える。しかし、歴史は活かしてこそ、本物の歴史になるのではないだろうか。勢田さんは「山鹿八千代座」を挙げ、万田坑の活用方法について語られた。そこに『万田坑ファン倶楽部』の参加資格である〈万田坑を大切にし、その魅力を伝え育てていくこと〉の意味がはっきりと表されている。

前畑特派員 Q：万田坑の活用について

勢田さん A：山鹿市の「八千代座」のように、「観光」「文化」「交流」の場として文化財を利用していきたいですね。

それには、何らかの付加価値をつけることです。

これまで「ミニコンサート」を開催するなど文化芸術と結び付けたイベントへは、多くの市民の反応がありました。その時、元炭鉱勤務者の体験談を入れて万田坑の歴史や魅力を伝えました。

これまで、あまり炭鉱に関わった事がない人にも、このような活用、つまり、生活の中でいい形で関わっていきけるようにしたいと思います。

前畑特派員 Q：今後の計画は？

勢田さん A：アクセスの問題、土地の取得などがあり、まだ一般公開していません



ん。今後は、行政側の進展と共に、一般公開の時、体験を交えて説明できるボランティアガイドを育成したいと考えています。

## 活かそう！旧万田坑第2の人生を 万田坑ファン倶楽部への期待

行政の対応と共に『万田坑ファン倶楽部』への期待も大きい。荒尾市民の生活の中にある文化財は、生活の中に積極的に取り入れることができこそ、「力」を発揮できるのだ。壁の向こうにあるものでは荒尾市の「資源」とはならない。知りたい見たい人は多い、学びたい人も多い、一般公開が実現した時、『万田坑ファン倶楽部』はその役目がさらに大きくなることだろう。

今、万田坑はいわば「第2の人生」を迎えている。その人生の足跡を、技術の歴史を、観光、文化、交流に役立てることがかつて“炭鉱のまち”として栄えた荒尾市が発信する新しいメッセージになるような気がする。

### ◆万田坑ファン倶楽部会員募集



通 増刊号 信

万田坑ファン倶楽部

#### 三井三池炭鉱万田坑ファン倶楽部

の会員になってみませんか？

参加資格は

万田坑を大切にし、その魅力を広く  
伝え育てていくことです。

会員の方には、ファン倶楽部通信や今後の万田坑での催し物情報などをお届けいたします。  
多くの皆様のご参加をお待ちしています。

万田坑ファン倶楽部会員申込先は

三井三池炭鉱万田坑ファン倶楽部事務局

荒尾市教育委員会 社会教育課 担当：勢田・黒田

〒864-8686 熊本県荒尾市宮内出目390

TEL0968-63-1111 (414) FAX0968-62-1218

※三井三池炭鉱万田坑ファン倶楽部通信 増刊号より